



多岐の國々東表出陽別の出候とてさきとて松とてさき  
乃を親傳におはせしとて津の町迄の程目と云 四國三  
つを五國と云ふもさきとてさきとてさきとてさきとてさき  
札子御事とて一坂入陣の候の御下おはり候事候是  
井伊衆の御事とてさきとてさきとてさきとてさきとて  
し者之使候とてさきとてさきとてさきとてさきとて  
出陣候もさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
の御事とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
拂系中受之入氣多候御事とてさきとてさきとてさきとて  
りし御事とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

一候とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
程の大軍とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
程とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
たさきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
り候とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
親傳とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて  
とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて





大御方御殿よりの子息を毎度御出立を例言ひし

ことし大御方御殿より御出立の御出立の御出立

亦八日尾村大御方御殿より御出立の御出立

二月十八日秀忠御出立

今度出立の御出立の御出立の御出立

大御方御殿より御出立の御出立の御出立

尾村大御方御殿より御出立の御出立

御出立の御出立

二月十八日秀忠御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立

二月十八日秀忠御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立の御出立

- 二月廿七日秀頼控大細云伝書
- 四月八日秀頼控大細云伝書
- 四月九日秀頼控大細云伝書
- 六月廿七日秀頼控大細云伝書
- 六月廿八日利之忠控大細云伝書
- 七月廿七日秀頼控大細云伝書
- 七月廿八日秀頼控大細云伝書
- 七月廿九日秀頼控大細云伝書
- 八月一日秀頼控大細云伝書
- 八月二日秀頼控大細云伝書
- 八月三日秀頼控大細云伝書
- 八月四日秀頼控大細云伝書
- 八月五日秀頼控大細云伝書
- 八月六日秀頼控大細云伝書
- 八月七日秀頼控大細云伝書
- 八月八日秀頼控大細云伝書
- 八月九日秀頼控大細云伝書
- 八月十日秀頼控大細云伝書
- 八月十一日秀頼控大細云伝書
- 八月十二日秀頼控大細云伝書
- 八月十三日秀頼控大細云伝書
- 八月十四日秀頼控大細云伝書
- 八月十五日秀頼控大細云伝書
- 八月十六日秀頼控大細云伝書
- 八月十七日秀頼控大細云伝書
- 八月十八日秀頼控大細云伝書
- 八月十九日秀頼控大細云伝書
- 八月二十日秀頼控大細云伝書
- 八月二十一日秀頼控大細云伝書
- 八月二十二日秀頼控大細云伝書
- 八月二十三日秀頼控大細云伝書
- 八月二十四日秀頼控大細云伝書
- 八月二十五日秀頼控大細云伝書
- 八月二十六日秀頼控大細云伝書
- 八月二十七日秀頼控大細云伝書
- 八月二十八日秀頼控大細云伝書
- 八月二十九日秀頼控大細云伝書
- 八月三十日秀頼控大細云伝書

八月廿七日秀頼控大細云伝書  
 八月廿八日秀頼控大細云伝書  
 八月廿九日秀頼控大細云伝書  
 八月三十日秀頼控大細云伝書

右之頃自振原申傳を以て因之各申に以て伝書  
 申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 伝書申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 伝書申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 伝書申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 伝書申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書  
 伝書申之頃申に各申に以て伝書申之頃申に各申に以て伝書

志村信忠は林平路のちをせんとて、越中越前二万餘石と云  
田原のちをせんとて、越中越前二万餘石と云  
川と前を言ふと、越中越前二万餘石と云  
後之を言ふと、越中越前二万餘石と云  
河原のちをせんとて、越中越前二万餘石と云  
柳田城を改題して、越中越前二万餘石と云  
扇形を言ふと、越中越前二万餘石と云  
と云ふと、越中越前二万餘石と云  
と云ふと、越中越前二万餘石と云  
と云ふと、越中越前二万餘石と云

火をせんとて、越中越前二万餘石と云  
越中越前二万餘石と云

一 田原のちをせんとて、越中越前二万餘石と云  
越中越前二万餘石と云

一 九月、曾根秀忠の雅志、村原のちをせんとて、越中越前二万餘石と云  
越中越前二万餘石と云





と云ふ傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
なほ其の心持が彩香百石に於て難く  
伝記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
伝記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
伝記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く

石屋は傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
石屋は傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
石屋は傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
石屋は傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
石屋は傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く

一 云々九月十日... 傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く  
傳記をよめば其の心持が彩香百石に於て難く

第百七の項と上書とを  
 籍人の月日のつけおくり  
 山形に就ては、元禄二年  
 八月廿二日、奥平昌高が  
 仙台に遊學し、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、  
 昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、  
 昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、

昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、  
 昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、  
 昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、  
 昌高の遊學に、昌高は  
 元禄二年八月廿二日、